

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位 (時間)	科目責任者
基礎看護学方法論 I - 2	1 年次 前期	必修	講義	1 単位 (30 時間)	岡本 亜希 ※
授 業 概 要					
<p>看護技術は人間を直接対象とする技術であり、対象と関わり合いながら安全で安楽な状態を実現させていく手段である。ここでは看護技術を身につけていく第一歩として、看護に共通する技術を習得する。各技術習得の際は単にやり方を覚えるだけでなく、科学的根拠や理論を学びながら身につけられるようにする。</p>					
到 達 目 標					
<p>1. 看護における清潔・不潔の概念を理解し、無菌操作を実施する。 2. バイタルサインが示す意味及び測定の方法原則を理解し、正確に測定する。 3. 安全・安楽に配慮しながらバイタルサイン及び身体測定を行う。</p>					
回	学 習 内 容				担当教員
1-6	<p>1. 環境の様々な危険因子を避け、他者を傷害しない 感染予防の技術 1) 生活環境のなかの危険因子 2) 感染予防における看護師の責務と役割 3) 感染源・感染経路への対策 エプロン・マスク・手袋の着脱 4) 手洗い・無菌操作の実施</p>				岡本 亜希 ※
7-15	<p>2. 正常に呼吸する、体温を生理的範囲内に維持する 1) 呼吸と循環のしくみ 2) 呼吸の意義と測定方法 3) 脈拍の意義と測定方法 4) 血圧の意義と測定方法 5) 体温の意義と測定方法 6) 呼吸・循環・体温調節のニードが充足された状態 7) 呼吸・循環・体温調節のニードの充足状況の判断 8) 呼吸を整える援助の基本 9) 循環を整える援助の基本 10) 保温・体温管理 11) バイタルサインの測定技術 計画 実施 評価 12) 呼吸音・腸蠕動音の聴取の基本</p>				
学 習 方 法					
<p>解剖生理学をはじめとする既習の知識を再確認しながら演習していく。自分自身が体験することで原理原則に沿った基本技術を習得していくので、自己訓練が必要。個人又はグループで演習をしながら、手順だけでなく、根拠を理解する努力が重要である。</p>					
評 価 方 法					
<p>[評価方法] 科目修了試験、技術試験、レポート</p>					
先 修 科 目					
なし					
教科書、参考書					
<p>[教科書] 新体系 看護学全書 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 編集 深井喜代子 メジカルフレンド社 写真でわかる 実習で使える看護技術 アドバンス 編著 吉田みつ子 本庄恵子 インターメディアカ 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 監修 川島みどり 医学書院</p>					